

質問

- ①先日、山形へ縄文の女神を見に行きました。直線的なフォルムが美しかったのですが、土偶は基本的に丸いフォルムをしており、ここ是川でも直線的な形状の土偶は見当たらないのですが、なぜだと思いますか？
- ②国宝の合掌土偶に対して、重要文化財341の土偶も同じ様に屈折像土偶であり、ポージングが合掌土偶同様、“輪”を意識している様に思うのですが、No.341は国宝の対象には挙がらなかったのでしょうか？

(りょうくんさん／32歳／青森県十和田市)

答え

土偶についてのご質問ありがとうございます。それぞれについて学芸員が説明するらん。

- ①作られた時期と地域が違うからです。縄文の女神は縄文時代中期の山形県、合掌土偶は縄文時代後期の青森県であり、1,000年以上の時間、300kmもの距離があります。
- ②合掌土偶の国宝指定理由には、完全な形で、ほかに類例がなく、縄文時代のくらしがうかがえる貴重な資料であることが挙げられています。

重要文化財341の土偶(類杖土偶)のように^{ほおづえ}体育座りをして腕を組んでいる土偶は、福島県^{かみおか}上岡遺跡をはじめとして他の遺跡でもみつかっていて、重要文化財に指定されているものもあります。



類杖土偶
(風張 (1) 遺跡)



上岡遺跡の土偶
(文献資料刊行会 1973『上岡遺跡』より)

